

五聖板、寒熱第七十

黃帝岐伯に問ふて曰く、寒熱と標瘧の頭眩に在る者は、何の
脈か左也使む。岐伯曰く、此れ皆風瘧、風寒熱の毒氣有り。
脈に留りて、去らざる者有り。

黃帝問ふて曰く、之を去るは奈何。岐伯曰く、風瘧の本は、皆藏に
在り、其の末はよりて頭眩の間に在る。其の脈中より浮きて、

末は内のかた肌肉に着けり也。外のかた膿血を爲す者は去り易き也。
黃帝曰く、之を去るは奈何。岐伯曰く、瀉ふ。其の本より、其の

五聖七十、一

末を引けば、其の寒熱を去るへ去り、絶や使む可し。其の道と按いて
審ふんにし、以て之に干り、アツカ ツヤ 徐かに往かす。徐かに來さす。以て
之を去る。其の少き者、一刺にして知しり。三刺にして
已む。

黃帝曰く、其の至死を決するは奈何。岐伯曰く、其の目正久し、
之を視ふは、其の中に赤脈有り。上下に貫くもの、瞳子に一脈を以て
一、一歳にして死す。一脈半を以て、一歳半にして死す。二脈を
以て、二歳にして死す。三脈を以て、二歳半にして死す。三脈を

五聖七十、二

見せし三歳に一之反す。赤脈を變す事。下りて臆子を貫くが如し。
此可一可有り。

脈の左心使の。脈は白く此水皆風也。鼻寒也。鼻冷有り。

脈の節々の去る事有り。

脈の節々の去る事有り。此水皆風也。鼻寒也。鼻冷有り。

中簡續考

中簡續考

重七十、三